

平成14年11月13日

日清製粉グループ 中間連結決算

中間期の業績は厳しい環境の続く中、拡販努力と徹底したコスト削減の効果があらわれ、売上高は2.5%増加、経常利益は18.7%増加を達成。下期も増収増益を実現し、通期の売上高は過去最高を更新し、経常利益も12.8%増と増益の見込み。

〔159期中間連結決算〕

株式会社日清製粉グループ本社（社長 正田 修）の159期中間連結決算は、売上高はデフレ圧力の強まる中にあったものの、食品事業の出荷伸張、飼料事業の畜産飼料価格改定などによって、前年を上回り、2,017億68百万円（前年同期比2.5%増）と上期としては初めて2,000億円の大台を達成しました。

収益面でもデフレの影響を受けたものの、購買・生産から販売・物流・管理に至るすべての領域でのコストダウンの徹底を図ると同時に食品事業を中心とした出荷伸張及び飼料事業の収益改善により、経常利益90億40百万円（前年同期比18.7%増）、中間純利益52億41百万円（前年同期比14.1%増）と増益を実現しました。

〔159期通期連結業績予想〕

159期通期連結業績予想は、製粉事業・食品事業での市場ニーズに応えた新製品の開発・投入などで売上が増加し、飼料事業で畜産用飼料が値上げとなることなどから下期も増収となり、通期では売上高は4,050億円（前期比2.0%増）と過去最高を更新する見込みです。

収益面では、当社を取り巻く業界全般で厳しい状況が続きますが、各事業で取り組んできましたコストダウン施策の効果が引き続き実現し、また製粉事業・食品事業で新製品の投入などで出荷が伸張することから、下期も増益となり、通期では経常利益197億円（前期比12.8%増）、当期純利益106億円（前期比13.6%増）となる見込みです。

尚、当社は今下期におきましても各事業の競争力強化を図るべく、中国青島市でのプレミックス工場の年内の稼働や来年10月を目途にした配合飼料事業の丸紅飼料㈱との経営統合に向けた協議の開始などグループ内外との連合による事業戦略を引き続き推進してまいります。

〔159期中間キャッシュ・フロー〕

キャッシュ・フローは、鶴見工場小麦粉生産能力増強等への積極的な設備投資、自己株式の取得10億82百万円等を実施しました結果、手元資金は長期運用資金を含め、29億44百万円減少し、559億76百万円となりました。

〔159期中間単体決算〕

当社は昨年7月2日に全事業を分社し、持株会社となりました。このため前年の業績には分社した事業の平成13年4～6月の業績が含まれております。

以 上